

2024
8月

久野営農経済センターだより



【温州みかん】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

7月下旬～8月中旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤600倍 166g/水100ℓ

収穫30日前 4回

○カイガラムシ類

チャノキイロアザミウマ

コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回

○ミカンハダニ

ミカンサビダニ

メビウスフロアブル（劇）3000倍 33ml/水100ℓ 収穫7日前 2回

アザミウマ類

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ

収穫30日前 4回

○ミカンハダニ

ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回

又は ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回

○チャノキイロアザミウマ

ヤノネカイガラムシ

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

品質向上対策

① 熟期促進を目的に、フィガロン乳剤の散布 **満開後60日と80日の2回** 3,000倍 300ℓ/10a

② **被覆資材**の利用 敷設は8月中、取り外しは収穫前に行う

着色向上を目的の場合は、樹冠下に敷く（部分被覆）

着色向上と増糖・除草を目的の場合には、園内全体に敷く（全面被覆）

【湘南ゴールド】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

8月下旬～9月上旬

○黒点病

ペンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ

収穫90日前 4回

○ミカンハダニ

ミカンサビダニ

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回

又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日1回

○チャノキイロアザミウマ

ヤノネカイガラムシ

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

○かいよう病（単葉散布）

コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ

（葉害軽減のためクレフノン200倍を加用する）

【中晩柑】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

8月下旬～9月上旬

○黒点病	<u>パンコゼブ水和剤又はジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍺</u> 収穫90日前 4回
○ミカンハダニ	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍺</u> 収穫前日 1回
<u>ミカンサビダニ</u>	又は <u>ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍺</u> 収穫前日1回
○ <u>チャノキロアザミウマ</u> <u>ヤノネカイガラムシ</u>	<u>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍺</u> 収穫前日 3回

はるみ・不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすいため水分ストレスを受けやすく、小玉、高酸果の原因になります。敷わらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培により梅雨明け後から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぎましょう。著しく乾燥が続く場合は灌水も検討しましょう。また、1果当たり100葉を基準に早めの摘果をしましょう。特にはるみは着果量が多いと樹勢の低下や枯死の原因になりますので、樹冠上部1/3から1/4は必ず全摘果をしましょう。

【う め】

病害虫防除 8月～9月 ○ケムシ類 ダントツ水溶剤 2,000倍 50g/水100㍺ 収穫前日 3回

夏季剪定 8月中旬～9月中旬まで

縮間伐を行い周囲から光が当たるようにするとともに、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで光が入るようにして翌年の花芽の充実を図りましょう。8月中に終わると効果が高いです。

(小梅や樹勢が弱っている樹は、夏季剪定は控えめにしましょう。)

【レモン】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除 8月下旬～9月上旬

○ <u>ミカンハダニ</u>	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍺</u> 収穫前日 1回
<u>ミカンサビダニ</u>	又は <u>ダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍺</u> 収穫前日 1回
<u>チャノホコリダニ</u>	
○ <u>かいよう病・黒点病</u>	<u>コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍺</u> (葉害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

※毎年黒点病が多い園では、枯れ枝の園外廃棄を徹底し、ストロビードライフロアブル3,000倍 (収穫14日前3回) を散布しましょう。

【キウイフルーツ】

夏季剪定終了後に発生した夏枝や、剪定した部分から出る新梢が巻きついた部分を取り除きます。結果枝の葉を充実させ、果実へ養分が行きやすくするために、新梢を伸ばさないようにしましょう。

※カメムシ発生時は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 50g/水100㍺を散布 (収穫前日 3回)

乾燥防止対策 初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにしましょう (敷わら・灌水)

【か き】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

○ <u>カキノハタムシガ</u>	<u>ダントツ水溶剤 4,000倍 25g/水100㍺</u> 収穫7日前 3回
<u>カメムシ類</u>	又は <u>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍺</u> 収穫前日 3回
<u>コナカイガラムシ類</u>	
○ <u>うどんこ病</u>	<u>トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100㍺</u> 収穫前日 6回
○ <u>うどんこ病多発園</u>	<u>トリフミン水和剤 3,000倍 33g/水100㍺</u> 収穫前日 3回

灌水 肥大促進・充実のため、梅雨明け後に乾燥が続く場合は、1週間に1回程度灌水をしましょう。

【お茶】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

土づくり 8月中旬までに苦土石灰120kgと有機物をすきこみ30cmくらいの深さに行いましょう。

病害虫防除

○チャノミドリヒメヨコバイ **ロディー乳剤(劇) 1,000倍 100 ml/水100ℓ 摘採7日前 1回**

チャノキイロアザミウマ

チャノホソガ

チャハマキ

チャノコカクモンハマキ

○炭疽病 **オンリーワンフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 摘採7日前 2回**

8月中下旬 **○カンザワハダニ** **ミルベノック乳剤 1,000倍 100ml/水100ℓ 摘採7日前 1回**

整枝 一番茶以降、更新作業を行ってない園では、上旬をめどに整枝を行いましょう。

ただし、樹勢が極端に悪い場合は、整枝は行わないようにしましょう。

【水 稲】

水管理(高温障害の対応) 重要

出穂後20日間の平均気温が26~27℃以上の高温で推移すると、高温障害粒(乳白粒・心白粒等)が多発し、品質が低下してしまいます。出穂前15日、出穂後10日間は水を切らさないようにしましょう。

その後は、根の活力維持のため間断かん水に努めましょう。35℃以上の異常高温が予測される場合は、掛け流しかん水をするにより、圃場の気温が低下して被害を軽減することができます。

病害虫防除 8月上旬~中旬

○斑点米カメムシ類

〈雑草管理〉

○出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませましょう。

○出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めます。1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りをしましょう。

○収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行いましょう。

8月上旬 (粒剤：出穂7日後) (液剤：出穂10日後)	カメムシ類	スタークル粒剤(3kg/10a)	7日前	3回
		スタークル豆つぶ(250g/10a)	7日前	3回
エミリアフロアブル1,000倍 (60~150ℓ/10a)		7日前	2回	
キラップフロアブル2,000倍 (60~200ℓ/10a)		14日前	2回	
8月中旬 (粒剤：出穂21日後) (液剤：出穂24日後)				

防雀網の設置 開花時に影響が無いように、出穂前に済ませましょう。

自然対策 豪雨の時 水口、水尻を閉め過剰な水路からの流入による倒伏を防ぎましょう。

泥水が入った場合には、すみやかに新鮮な水と入れ替えましょう。

強風の時 水口、水尻を閉め深水にして、風による倒伏を防ぎましょう。

斑点米カメムシの防除について

昨年、斑点米カメムシによる被害がとて多くみられました。今年も猛暑の影響で多くの斑点米カメムシが発生する可能性があります。畦畔の雑草管理と薬剤散布を組み合わせた防除を行いましょう。詳細は【水稲】の病害虫防除の欄をご参照ください。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。